

「思考スキル」は、問題に取り組むことを通じて、みなさんに身につけてほしい力を表したものです。思考スキルは、特定の問題に限らず、さまざまな場面で活用することができる大切な力です。問題につまずいたときには、思考スキルに着目してみましょう。どのような切り口で問題と向き合えばよいのか、どのように考え進めればよいのか、…など、手がかりをとらえるのに役立ちます。問題に取り組むとき、活用してみましょう。

思考スキル

○情報^{じょうほう}を獲得^{かくとく}する

- ・問題文から情報や問題の条件を正しくとらえる
- ・図やグラフなどから情報を正しくとらえる

○再現^{さいげん}する

- ・計算を正しく行う
- ・問題の指示^{しじ}通りの操作^{そうさ}を正しく行う

○調べる

- ・方針を立て、考えられる場合をもれや重複なく全て探し出す
- ・書き出すことを通じて、法則を発見する

○順序^{じゆんじゆ}立てて変化^{へんげん}をとらえる

- ・変化する状況^{じきょう}を時系列で明らかにする
- ・複雑な状況^{ふくざん}を要素ごとに筋道^{すじみち}立てて明らかにする
- ・前問が後に続く問いの手がかりとなっていることを見ぬく

○特徴^{とくちょう}的な部分^{ぶぶん}に注目^{ちゆぼく}する

- ・等しい部分に注目する
- ・変化しないものに注目する
- ・際立った部分(計算式の数、素数、約数、平方数、…など)に注目する
- ・和、差や倍数関係に注目する
- ・対称性^{たいじゆうせい}に注目する
- ・規則や周期に注目する

○一般化^{いぱんか}する

- ・具体的な事例から、他の状況にもあてはまるような式を導き出す
- ・具体的な事例から、規則やきまりをとらえて活用する

○視点^{してん}を変える

- ・図形を別の視点で見るとらえる
- ・立体を平面的にとらえる
- ・多角的な視点で対象をとらえる

○特定の状況^{ていごうのじきょう}を仮定^{かりてい}する

- ・極端^{きょくたん}な場合を想定して考える(もし全て○なら、もし○○がなければ、…など)
- ・不足^{みそ}を補ったり、余分を切りはなしたりして全体をとらえる
- ・複数のものが移動するとき、特定のものを移動させて状況をとらえる
- ・具体的な数をあてはめて考える
- ・解答^{かいだ}の範囲^{はんい}や大きさの見当をつける

思考スキル

○知識

- ・ 情報を手がかりとして、持っている知識を想起する
- ・ 想起した知識を正しく運用する

○理由

- ・ 筆者の意見や判断の根拠こんきよを示す
- ・ ある出来事の原因、結果となることを示す
- ・ 現象の背後はいごにあることを明らかにする

○置換ちかん

- ・ 問いを別の形で言い表す
- ・ 問題の状況じょうきょうを図表などに表す
- ・ 未知のものを自分が知っている形で表す
- ・ 具体的な数と比を自由に行き来する

○比較ひかく

- ・ 多角的な視点してんで複数のことがらを比べる
- ・ 複数のことがらの共通点を見つけ出す
- ・ 複数のことがらの差異さいを明確にする

○分類

- ・ 個々の要素によって、特定のまとまりに分ける
- ・ 共通点、相違点そういてんに着目して、情報を切り分けていく

○具体化

- ・ 文章から筆者の挙げる例、特定の状況や心情を取り出す
- ・ ある特徴とくちょうを持つものを示す

○抽象化ちゅうしょうか

- ・ 個々の事例から具体的な要素を除いて形式化する
- ・ 個々の事例から共通する要素を取り出してまとめる

○関係

- ・ 文章どうしのつながりをとらえる
- ・ 部分と全体のそれぞれが互たがいに与えあう影響えいじやうに目を向ける
- ・ ある目的のための手段しゅだんとなることを見つけ出す

○推論すいろん

- ・ 情報をもとに、先の変化を予測する
- ・ 文章から、筆者の考えを論理的に導き出す

○類推

- ・ 情報を活用して、さらに別の情報を引き出す
- ・ 個々の共通点から、特定の事象じじやうを導き出す
- ・ 要素間の意味をとらえ、情報を補おぎなう

小学6年 適性検査A — 解答と解説

1

【例】 (1)
 糸の長さが4倍、9倍、16倍、…になると、10往復の時間は2倍、3倍、4倍、…になります。

21

(2) 4 秒 (3) 【例】 誤差を小さくし、より正確な値に近づけるため

23

(4) ウ	(5) エ	(6) ①、⑨	(7) エ
-------	-------	---------	-------

24

25

26 (完答)

27

(8) ① 2 秒 ② 100 cm

28

29

(9) ① 1.6 秒 ② 毎秒 7.5 cm ③ A ウ B ア C オ

30

31

32

33

34

2

(1)	(2)
	イ オ

36

37 (36、37順不同)

35

【例】 (3)

総合評価の割合について、㉑は㉒よりA、Bが高く、C、D、Eが低いこと、さらに、体力の合計点について、㉑は㉒、全国平均の値を上回っていることがわかる。これらのことから、運動・食事・睡眠を大切にする人は体力が高く、健康的であると考えられる。

38

【例】 (4)

「『運動・食事・睡眠』の全てが大切以外」と答えた人は、「『運動・食事・睡眠』の全てが大切」と答えた人に比べて

画面を見ている時間が2時間以上の人の割合が約9%多い。

39

【例】 (5)

睡	眠	時	間	が	6	時	間	未	満	、	運	動	時	間	も	3	0	分	未
満	と	少	な	い	。	そ	の	た	め	、	体	力	が	低	い	と	考	え	ら
れ	る	。	そ	こ	で	、	睡	眠	時	間	を	9	時	間	以	上	取	り	、
テ	レ	ビ	を	見	る	時	間	を	家	の	手	伝	い	な	ど	に	あ	て	、
体	を	動	か	す	時	間	を	増	や	せ	ば	よ	い	と	思	う	。		

40

(配点)
 ㉑(2)、(4)、(6)、(9)③……各4点
 ㉒(1)、(3)、(5)、(7)、(8)、(9)①、②、㉓(1)、(2)、(4)……各5点
 ㉔(3)、(5)……8点
 計100点

【解 説】

① ふりこに関する問題

(1) **B1** 情報を獲得する 具体化 関係

問題の表2より、糸の長さが25cmから4倍(=100÷25)、9倍(=225÷25)、16倍(=400÷25)、…となると、10往復の時間は10秒から2倍(=20÷10)、3倍(=30÷10)、4倍(=40÷10)、…となっています。つまり、糸の長さが元の $2 \times 2 = 4$ (倍)、 $3 \times 3 = 9$ (倍)、 $4 \times 4 = 16$ (倍)、…倍となると、10往復の時間は元の2倍、3倍、4倍、…倍となることがわかります。この問題では、①正しい内容が書かれているかどうか、②①に過不足がなく、表現や表記に誤りがないかどうかを中心に見ています。

糸の長さ (cm)	25	100	225	400
10往復の長さ (秒)	10	20	30	40

(2) **B1** 情報を獲得する 比較 推論

問題の表1より、振幅が10cm、20cm、30cm、40cm、…のとき、10往復の時間は20秒のまま変化しません。同様に、表3より、おもりの重さも50g、100g、150g、200g、…のとき、10往復の時間は20秒のまま変化しません。よって、糸の長さが400cmのときのふりが10往復する時間は、おもりの重さや振幅に関係なく、問題の表2より40秒です。したがって、1往復する時間は、 $40 \div 10 = 4$ (秒)です。

振幅 (cm)	10	20	30	40
10往復の時間 (秒)	20	20	20	20

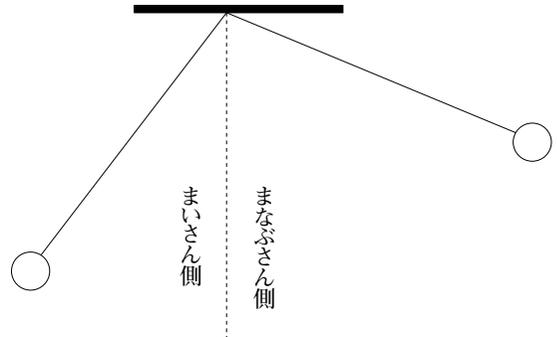
おもりの重さ (g)	50	100	150	200
10往復の時間 (秒)	20	20	20	20

(3) **B1** 理由 具体化 推論

ふりこの周期を調べようとするとき、おもりははなすときの手のぶれや、ストップウォッチを押すタイミングのずれなど、実験操作における誤差(くるい)が生じることがあります。そこで、10往復する時間を測定し、その値を10でわるという方法で周期を求めると、誤差も「10でわる」ことになるので、より正確な値に近づきます。この問題では、①正しい内容が書かれているかどうか、②①に過不足がなく、表現や表記に誤りがないかどうかを中心に見ています。

(4) **B1 理由 推論**

(2)より、糸の長さ、おもりの重さが同じ2つのふりこの10往復の時間は振幅に関係なく等しくなります。よって、おもりを手放した位置から点線までのおもりの移動時間(1往復の時間の $\frac{1}{4}$)も等しいので、おもりは毎回、点線上でぶつかります。

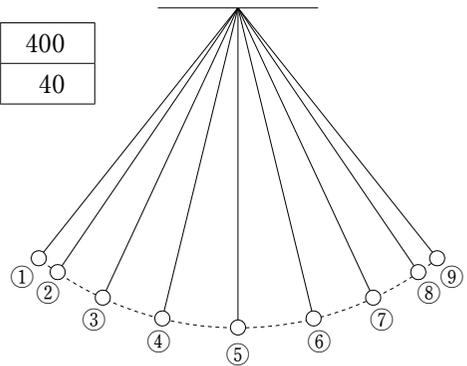


(5) **B2 情報を獲得する 推論**

問題の図2は、0.25秒ごとに撮影したものであるから、「①～⑨、⑨～①」までの1往復にかかった時間は、 $0.25 \times (9-1) \times 2 = 4$ (秒) となります。

このとき、10往復にかかる時間は、 $4 \times 10 = 40$ (秒)となるなので、問題の表2から、撮影に使われたふりこの糸の長さは400cmとわかります。

糸の長さ (cm)	25	100	225	400
10往復の長さ (秒)	10	20	30	40



(6) **B1 分類 関係**

問題の図2の①と⑨のように、ふれているふりこのおもりの高さが最も高くなる位置では、おもりは一瞬静止し、運動の向きを変えて最下点に向かいます。よって、おもりが移動する速さが0になるのは、おもりが①と⑨にあるときです。

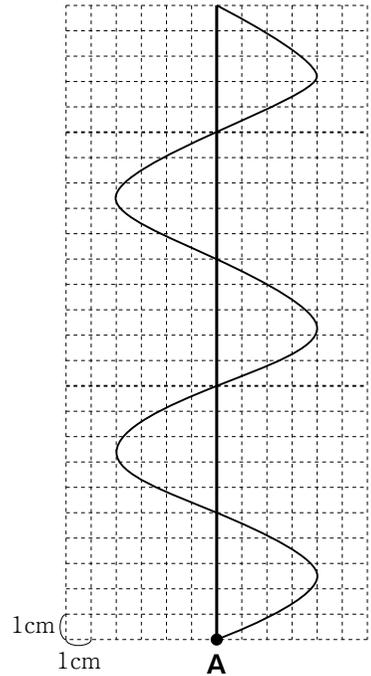
(7) **B2 情報を獲得する 比較 推論**

①で手放したおもりが⑤の位置にあるとき、おもりは真横(水平方向)に進もうとしていますが、糸に支えられているので、その後のおもりは⑥→⑦→⑧→⑨と進みます。しかし、⑤の位置で糸が切れると、支えを失ったおもりは水平方向に投げ出されることとなります。このとき、おもりは水平方向に運動するとともに、落下していきます。つまり、ものを水平に投げたときと同じ運動をするので、エとなります。

(8) ① **B1** 情報を獲得する 特徴的な部分に注目する 理由

問題の図5の記録用紙にえがかれた曲線は、点Aを中央とする左右同じ幅での波状となっています。点Aはふりこの支点の真下にあたり、点Aから垂直に真上にのびた直線と波状の曲線との交点ごとに、ふりこのおもりが最下点を通過するのがわかります。右の図のように、点Aと交点までの直線距離は10cm(10めもり)なので、ふりこの1往復の時間は、 $10 \div 5 = 2$ (秒)とわかります。

記録用紙



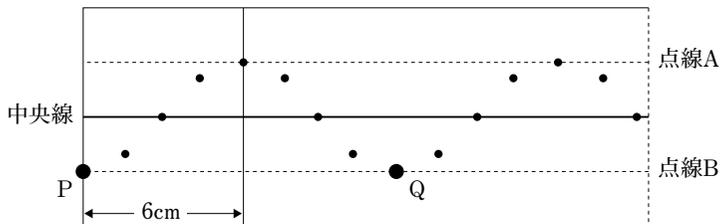
② **B2** 情報を獲得する 推論

①より1往復の時間が2秒なら、10往復の時間は $2 \times 10 = 20$ (秒)なので、ふりこの糸の長さは問題の表2より、100cmとわかります。

糸の長さ (cm)	25	100	225	400
10往復の時間 (秒)	10	20	30	40

(9) ① **B1** 情報を獲得する 特徴的な部分に注目する 理由

問題の図7で、ふりが1往復する点Pから点Qまでにインクが9滴落下しているのて、1往復の時間は $0.2 \times (9 - 1) = 1.6$ (秒)です。



② **B1** 情報を獲得する 推論

①より、記録用紙は1.6秒で $6 \times 2 = 12$ (cm)動きます。よって、1秒では $12 \div 1.6 = 7.5$ (cm)動きます。

③ **B2** 情報を獲得する 置換 推論

A ふりこの糸を長くすると、1往復の時間が長くなります。そのため、ふりが1往復する「点線Bから点線Bまで」の間にインクが落下する回数が増えます。

また、ふりが1往復する間に記録用紙が動く長さも長くなるので、図7の「点線Bから点線Bまで」も長くなります。よって、これらの条件があてはまるウとなります。

B ふりこのおもりを重くしても、1往復の時間は最初の実験と変わりません。

C 記録用紙を遅く動かすと、その間にふりが複数回往復できますが、1往復の時間に

インクが落下する回数は変わりません。1 往復する間に記録用紙が動く長さが短くなるオがあてはまります。

② 「新体力テスト」をテーマにした問題

(1) **B2** 情報を獲得する 置換 具体化

問題の資料1と資料3を利用して、ひろしさんの6年生の新体力テストの得点をレーダーチャートに表します。

下の図の色がついた部分が、ひろしさんの得点となります。

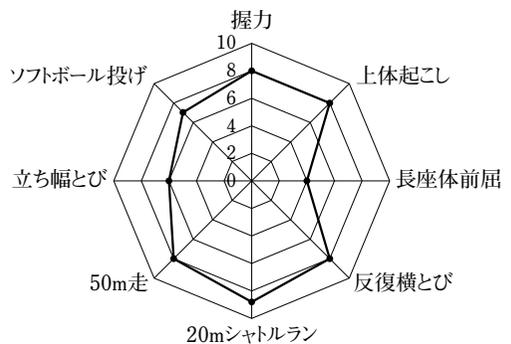
ひろし君の新体力テストの記録の移り変わり

種目(単位)	4年	5年	6年
握力(kg)	12	22	22
上体起こし(回)	21	27	22
長座体前屈(cm)	28	32	25
反復横とび(点)	44	49	42
20mシャトルラン(回)	38	55	70
50m走(秒)	9.1	8.4	8.7
立ち幅とび(cm)	154	152	155
ソフトボール投げ(m)	11	22	28

男子種目別得点表

得点	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ
10	26kg以上	26回以上	49cm以上	50点以上	80回以上	8.0秒以下	192cm以上	40m以上
9	23～25	23～25	43～48	46～49	69～79	8.1～8.4	180～191	35～39
8	20～22	20～22	38～42	42～45	57～68	8.5～8.8	168～179	30～34
7	17～19	18～19	34～37	38～41	45～56	8.9～9.3	156～167	24～29
6	14～16	15～17	30～33	34～37	33～44	9.4～9.9	143～155	18～23
5	11～13	12～14	27～29	30～33	23～32	10.0～10.6	130～142	13～17
4	9～10	9～11	23～26	26～29	15～22	10.7～11.4	117～129	10～12
3	7～8	6～8	19～22	22～25	10～14	11.5～12.2	105～116	7～9
2	5～6	3～5	15～18	18～21	8～9	12.3～13.0	93～104	5～6
1	4kg以下	2回以下	14cm以下	17点以下	7回以下	13.1秒以上	92cm以下	4m以下

これらの得点を図にすると右のようになります。



(2) **B1** 情報を獲得する 関係 比較

(1)で作成したレーダーチャートと資料1、資料2、資料4から読み取れるひろしさんの体力の特徴として正しいものを選ぶ問題です。資料をよく検討して選ぶことが大切です。

ア：茨城県の小学生男子50m走の平均記録は、4年から5年、5年から6年はそれぞれ0.4秒ずつ短縮されています。一方、ひろしさん50m走の記録は4年から5年は0.7秒短縮されていますが、5年から6年は0.3秒増加しています。よって、正しくありません。

イ：ひろしさんのソフトボール投げの記録は、4年から5年は11m、5年から6年は6mと、どちらも5m以上のびています。また、5年での得点は6点で、6年は7点と1点増えています。よって、正しいと言えます。

ウ：資料4から、「動きを続ける力」が測定できる種目は「上体起こし」「20mシャトルラン」であることがわかります。ひろしさんの上体起こしの得点は8点、20mシャトルランの得点は9点と、どちらも8点以上になっています。また、「タイミングのよさ」が測定できる種目は「反復横とび」「立ち幅とび」「ソフトボール投げ」であることがわかります。ひろし君の反復横とびの得点は8点、立ち幅とびは6点、ソフトボール投げの得点は7点で、反復横とびは8点未満になっていません。よって、正しくありません。

エ：ひろしさんの4年と6年の記録を比べると、6年の「長座体前屈」「反復横とび」の記録が、4年生の記録を下回っています。よって、正しくありません。

オ：資料4から、すばやさを測定できる種目は「反復横とび」「50m走」であることがわかります。ひろしさんの5年と6年の記録を比べると、反復横とび、50m走のどちらも5年の記録を下回っています。よって、正しいといえます。

(3) **B2** 情報を獲得する 比較 推論 具体化

資料6から、総合評価について、「健康のために『運動・食事・睡眠』の全てが大切」と回答した人は、「健康のために『運動・食事・睡眠』の全てが大切以外」と回答した人より総合表評価A、Bが高く、C、D、Eが低くなっていることがわかります。また、体力合計点について、「健康のために『運動・食事・睡眠』の全てが大切」と回答した人は、「健康のために『運動・食事・睡眠』の全てが大切以外」と回答した人の値だけでなく、全国平均の値を上回っていることがわかります。これらのことから、「健康のために『運動・食事・睡眠』の全てが大切」と回答した人は、体力が高く、健康的であることが考えられます。この問題では、①「健康のために『運動・食事・睡眠』の全てが大切」と答えた人と「健康のために『運動・食事・睡眠』の全てが大切以外」と答えた人を比べてわかることが書かれている、②資料から考察できる内容かどうか、③①②に過不足がなく、読み手が内容を補う必要がないかどうか、④表現や表記に誤りがないかどうかを中心にしています。

(4) **B1** 情報を獲得する 関係 比較 具体化

資料7から、「『運動・食事・睡眠』の全てが大切以外」と答えた人のうち「画面を見ている時間(平日)」が5時間以上、4時間以上5時間未満、3時間以上4時間未満、2時間以上3時間未満の人の割合が「『運動・食事・睡眠』の全てが大切」と答えた人より多くなっていることがわかります。また、その割合を比べると、「『運動・食事・睡眠』の全てが大切以外」の合計は52.6%、「『運動・食事・睡眠』の全てが大切」の合計は43.2%と、「『運動・食事・睡眠』の全てが大切以外」のほうが約9%多くなっています。このことを(3)に書かれたことを参考にしておまとめます。

この問題では、①資料7からわかることが書かれているか、②①に過不足がなく、読み手が内容を補う必要がないかどうか、③表現や表記に誤りがないかどうかを中心にしています。

(5) **C1** 関係 比較 類推 具体化

としえさんが新体力テスト記録用紙に記入したことを見ながら、体力を向上するための方法についてあなたが考える具体的な方法を理由とともに書く問題です。記録用紙を見ると、たとえば、としえさんは運動やスポーツを「ときたま(月に1～3日くらい)」(項目4)しかしていないこと、1日に「30分未満」しかしていないこと(項目5)などがわかります。また、1日の睡眠時間は「6時間未満」と少なく(項目7)、テレビを見る時間が「2時間以上3時間未満」とやや多くなっています。これらのことを総合して、あなたが考えとしえさんがしたほうが良いと思う取り組みを具体的にまとめましょう。たとえば、テレビを見る時間を減らして、その分を運動やスポーツにあてることで体力を向上することができるかもしれません。読み手のことも考えて、わかりやすくまとめましょう。

この問題では、①としえさんの体力を向上するための具体的な取り組みが書かれているか、②①の理由が書かれているか、③①②に過不足がなく、読み手が内容を補う必要がないかどうか、④表現や表記に誤りがないかどうかを中心にしています。

小学6年 適性検査B — 解答と解説

1

(1)	(2)	(3)		
ウ、エ	コ、シ	①	A	②
21 (完答)		22 (完答)		23
				24 (23、24順不同)

(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
ウ	ア	10.9 g	1.8 g	カ
25	26	27	28	29

(9)

【例】
①ではホウ酸がとけるまでに時間がかかるが、②ではホウ酸がすぐにとける。しかし、ホウ酸が水にとける量はどちらも変わらない。

30

2

【例】
偶数の中でただ一つの素数である。

31

3

(1)	(2)	(3)
8 個	取った 取らなかった	取った 取らなかった
32	33	34

(4)					
Aさん	みかん	いちご	りんご	なし	35(完答) 36(完答) 37(完答)
Cさん	みかん	いちご	りんご	なし	
Dさん	みかん	いちご	りんご	なし	

4

(1)	(2)
いる 人	いない 10 人
38	39

(3)		
A町から乗ってB町で降りた人	A町から乗ってC町で降りた人	B町から乗ってC町で降りた人
23 人	17 人	8 人

40(完答)

(配点)
 ① (3)、(4)、(5)、③ (1)、(2)、(3)……各4点
 ① (9)、②、③ (4)、④ (2)、(3)……各6点
 他……各5点
 計100点

【解 説】

① ホウ酸に関する問題

(1) **A2** 情報を獲得する 比較

上皿てんびんが釣り合うとき、上皿てんびんの左右の皿にのせたものの重さが同じになっています。したがって、問題の下線部①のように「釣り合った」ことで、AとCの重さの合計と、Bの重さが等しいとわかります。

このとき、AやCは0gではないので、BはAやCよりも重いことがわかりますが、AとCのどちらが重いかはわかりません。

(2) **A2** 情報を獲得する 比較

上皿てんびんの左の皿にDをのせ、右の皿にAとBをのせたところ、釣り合うことなく左の皿が下になるようにかたむきました。このことから、AとBの重さの合計よりもDの方が重いことがわかります。

(3) **B1** 情報を獲得する 分類 推論

問題の下線部①の結果によって、A～Cの中ではBが最も重いことがわかります。また、問題の下線部②の結果によって、BよりもDの方がさらに重くなっていることがわかります。

したがって、A～Dの4つで重さを比べたとき、1番重いものがD、2番目に重いものがBになります。しかし、3番目に重いものがAなのかCなのかはまだわかりません。そこで、上皿てんびんの左の皿にAを、右の皿にCをのせて(もちろん左右逆にのせてもかまいません)、どちらの皿が下がるかを確かめれば、A～Dの重い順がわかります。

(4) **B1** 特定の状況を仮定する 理由

上皿てんびんを使ってものの重さをはかるとき、分銅を何度ものせたりおろしたりすることがあります。そのため、右ききの人は向かって右の皿に、左ききの人は向かって左の皿に分銅をのせることで作業がしやすくなると考えられます。

(5) **B1** 特定の状況を仮定する 理由

上皿てんびんのうでと支点が接する面積が小さく、わずかな重さのちがいでかたむいてしまうものが、より正確に重さをはかることができるてんびんといえます。

したがって、左右の皿にのせたものの重さが等しくなっても、針が静止することはほとんどなく、目もり板の中央から左右同じ目もりの分だけ針がゆるようになったときを、「てんびんが釣り合った状態」としています。

(6) **A2** 情報を獲得する 再現する

上皿てんびんが釣り合ったとき、右の皿にのせた分銅の重さの合計とものの重さは等しくなっています。右の皿にのせた分銅は10gの分銅が1個、500mg(=0.5g)の分銅が1個、200mg(=0.2g)の分銅が2個なので、 $10+0.5+0.2\times 2=10.9$ (g)が薬包紙Cのホウ酸の重

さとなります。

(7) **A2** 情報を獲得する 再現する

問題の表には、いろいろな温度で100gの水にとけるホウ酸の最大量が示されています。

温度 (°C)	0	10	20	30	40	50	60	70	80
重さ (g)	2.7	3.6	5.0	6.6	8.7	11.5	14.8	18.6	23.7

10°Cのとき、重さは3.6gとなっていますが、これをとくす水の量を半分の50gに変えると、とけるホウ酸の量も半分になります。そのため、 $3.6 \div 2 = 1.8$ (g)までのホウ酸しかとくすることができません。

(8) **B1** 情報を獲得する 具体化

(7)のように考えると、とくすことができるホウ酸の量は、水温が70°Cのとき、 $18.6 \div 2 = 9.3$ (g)、80°Cのとき、 $23.7 \div 2 = 11.85$ (g)になります。そのため、アルコールランプの炎はのちで水よう液をあたため、水温が70°Cから80°Cの間になったとき、10.9gのホウ酸をすべとくすことができるとわかります。

(9) **B1** 理由 具体化

ホウ酸を水の入ったビーカーに入れてすぐのときは、ビーカーの底の方が濃く、上の方がうすい水よう液となっています。しばらく時間が経過すると、水よう液の濃さはどこも同じになります。

ホウ酸を加えてからビーカーの水をよくかきまぜると、短時間にとけてどこも同じ濃さになりますが、その温度でとける物質の最大量は変化しません。また、とくすつぶを細かくくぐらしてから水に入れると、水とふれ合う表面積が大きくなってはやくとけるようになりますが、よくかきまぜると同じようにとける最大量は変わりません。この問題では、①「同じ点」「ちがう点」が書かれているかどうか、②①に過不足がなく、文章の整合性あやまに誤りがないかどうか、③表現や表記に誤りがないかどうかを中心に見ています。

2 整数が持つ性質をさぐる問題

B2 情報を獲得する 特徴的な部分に注目する 一般化する

2が持つ数の性質のうち、『特別な数』といえる理由になるようなものとして、たとえば次のようなものが考えられます。

- ・偶数の中でただ一つの素数である
- ・約数の和が素数になる (素数の中で、約数の和が素数になるのは2のみです。)
- ・逆数が小数第一位までの数となる
- ・1を加えても素数になるただ一つの素数である

この問題では、①正しい内容が書かれているかどうか、②①に過不足がなく、表現や表記に誤りがないかどうかを中心に見ています。

③ 筋道を立てて考える問題

(1) **A2** 情報を獲得する

$$2+2+3+1=8 \text{ (個)}$$

(2) **B1** 情報を獲得する 置換 順序立てて変化をとらえる

りんごは「3人が連続して取った」ので、取った人は(Aさん、Bさん、Cさん)か、(Bさん、Cさん、Dさん)のどちらかです。どちらにしても、BさんとCさんの2人はりんごを取ったことがわかります。

(3) **B1** 情報を獲得する 置換 順序立てて変化をとらえる

Bさんは「果物を1個おきに2個取り、りんごを取った」ことになります。すると、「みかん→いちご→りんご→なし」の順から、みかんも取ったことがわかります。

(4) **B2** 情報を獲得する 置換 順序立てて変化をとらえる 特徴的な部分に注目する

Cさんは「果物を3個取り、そのうち2個だけは連続して取り、りんごを取った」ことになります。みかん→いちご→りんご→なしの順から、りんごとなしを連続して取り、みかんも取ったことがわかります。

みかんを取った2人は、BさんとCさんです。

なしは「連続しない2人が取り、Cさんは取った」ので、Aさんも取ったことになります。

つまり、なしを取った2人はAさんとCさんです。

Aさんは、「果物を2個連続して取り、なしを取った」ので、りんごとなしを取ったことになります。

ここまでで、Aさん、Bさん、Cさんの取った果物がすべて決まっています。また、みかん、りんご、なしも取った人がすべて決まっています。

いちごを取ったのは1人だけで、Aさん、Bさん、Cさんの3人は取っていないので、Dさんはいちごだけ取ったことになります。

(参考)

4人が取った果物は次のようになります。

	みかん	いちご	りんご	なし	合計(個)
Aさん			○	○	2
Bさん	○		○		2
Cさん	○		○	○	3
Dさん		○			1
合計(個)	2	1	3	2	8

4 条件を整理して考える問題

(1) B1 情報を獲得する

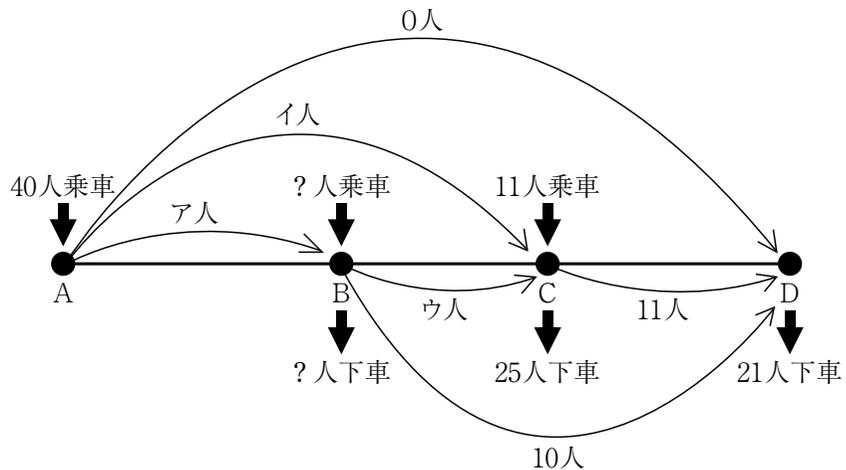
C町で、A町から乗った人はいなくなったので、A町から乗ってD町で降りた人はいません。

(2) B2 情報を獲得する 調べる 順序立てて変化をとらえる

それぞれの区間の^{うんちん}運賃と、利用した人数を表に整理します。

区間	運賃(円)	人数(人)
A→B	300	ア
A→C	450	イ
A→D	600	0
B→C	200	ウ
B→D	400	10
C→D	250	11

- ・ Aから乗った人数は40人で、A→Dは0人、ア+イ=40人です。
- ・ Cで^お降りた人は25人です。つまり、イ+ウ=25人です。
- ・ Cで乗った人は11人です。つまり、C→Dは11人です。
- ・ Dで降りた人は21人です。つまり、A→DとB→DとC→Dの合計が21人です。よって、B→Dは $21 - (0 + 11) = 10$ (人)です。



(3) B3 情報を獲得する 順序立てて変化をとらえる 特定の状況を仮定する

$$22900 - (400 \times 10 + 250 \times 11) = 16150 \text{ (円)}$$

…… A→B、A→C、B→Cの利用者の運賃の合計

(2)より、A→Bの利用者ア人とA→Cの利用者イ人の合計は、 $ア + イ = 40$ (人)です。

A→Cの利用者イ人とB→Cの利用者数ウ人の合計は、 $イ + ウ = 25$ (人)です。

もし、 $イ = 0$ 人とすると、 $ア = 40$ 人、 $ウ = 25$ 人となるので、運賃の合計は $300 \times 40 + 200$

適性検査B—解答と解説

$\times 25 = 17000$ (円) となります。ところが、実際は16150円なので、運賃の額が異^{こと}なります。そこで、イの人数を増やすことに注目します。

イが1人増えるごとに、アとウが1人ずつ減ることになります。このとき運賃の合計は、450円増えて $300 + 200 = 500$ (円) 減るため、全体で $500 - 450 = 50$ (円) 減ることになります。

	イの人数				
		+ 1人	+ 1人	+ 1人	...
		↘	↘	↘	...
イ (人)	0	1	2
ア (人)	40	39	38
ウ (人)	25	24	23
運賃の合計 (円)	17000	16950	16900	...	16150
		↘	↘	↘	...
		-50円	-50円	-50円	...
		運賃の合計			

すると、イは $(17000 - 16150) \div 50 = 17$ (人) とわかり、アは $40 - 17 = 23$ (人)、ウは $25 - 17 = 8$ (人) とわかります。よって、A → Bの利用者は23人、A → Cの利用者は17人、B → Cの利用者は8人となります。

1

問三										【例】
守	森	生	要	し		く	必	環		
る	を	活	な	ん	な	す	要	境	人	
工	を	を	食	で	な	る	最	破	間	
夫	切	成	料	い	な	こ	低	壊	が	
も	り	り	を	る	ら	と	限	に	よ	
し	開	立	得	人	、	を	の	つ	り	
な	く	た	る	が	今	優	規	な	よ	
け	こ	せ	こ	い	で	先	模	が	く	
れ	と	せ	と	る	も	し	で	つ	生	
ば	で	る	が	か	多	て	あ	て	き	
な	生	こ	が	ら	く	よ	れ	し	る	
ら	物	と	が	だ	の	い	、	ま	た	
な	が	が	で	。森	国	と	今	た	め	
い	絶	で	き	を	で	思	後	事	に	
と	め	る	、	切	食	う	も	例	行	
思	つ	か	そ	り	料	。	人	は	っ	
う	し	も	の	開	が		間	あ	て	
	な	し	土	き	不		の	る	き	
	い	れ	地	農	足		生	が	た	
	よ	な	に	地	し		活	、	開	
	う	い	住	に	、		を	わ	発	
	に	。	む	し	う		を	た	に	
	、	同	人	、	え		よ	し	よ	
	環	時	々	必	に		り	は	つ	
	境	に	の		苦		よ	は	て	
	を									

250

200

100

25

問二		
ウ	イ	ア
八	貯	発
郎	水	揮
と	量	
辰		
子		
が		
共		
に		
暮		
ら		
し		
て		
い		
る		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		

2

問二													問一				
													【例】				
心	に	ら	か	と		思	こ	よ		行	こ	ろ		進	の	ら	両
し	入	多	も	え	な	う	で	う	自	わ	し	が	日	む	人	ず	眼
て	っ	額	し	運	ぜ	。	、	金	転	れ	た	あ	本	べ	の	困	が
自	て	の	れ	転	な		自	を	車	る	り	る	人	き	肩	っ	不
転	い	治	な	に	ら		転	は	事	こ	す	の	は	方	に	て	自
車	れ	り	い	自	、		車	ら	故	と	で	頭	が	向	置	い	由
に	ば	よ	。	信	事		に	わ	に	も	、	が	い	を	く	る	な
乗	、	う	も	が	故		乗	な	よ	あ	問	い	わ	教	か	時	人
る	し	費	、	あ	は		る	け	つ	と	題	い	り	え	し	に	が
こ	も	を	、	つ	い		人	れ	と	多	が	わ	、	て	て	、	、
と	の	求	自	も	つ		は	ば	と	い	起	り	、	あ	、	正	自
が	と	め	分	思	起		必	な	他	。	こ	に	、	げ	、	し	分
で	き	ら	が	い	き		ず	ら	人	ま	つ	予	測	れ	、	い	の
き	に	る	事	が	か		保	い	ケ	た	て	測	す	ば	位	の	ど
と	備	こ	を	起	わ		険	こ	ガ	、	か	あ	る	よ	置	手	ち
思	え	と	起	け	か		に	と	を	さ	ら	わ	こ	い	に	を	ら
う	る	も	こ	な	ら		入	も	さ	せ	あ	わ	と	。	身	握	に
	こ	あ	し	い	な		る	あ	て	て	た	て	が		体	る	進
	と	り	た	事	い		べ	る	い	し	対	て	下		を	か	め
	が	う	ら	故	か		き	そ	さ	う	策	対	手		向	自	ば
	で	る	、	を	ら		だ	う	せ	し	が	策	の		け	分	よ
	き	。	相	起	だ		と	だ	て	、	過	を	手		て	の	い
	、	保	手	こ	。		ぼ	。	い	ほ	度	ほ	を		か	手	か
	安	険	か	す	た		く	は	し	ど	に	ど	か		ら	を	か
350	300					200			100		25			100			25

- (配点)
- ① (問一) (1)4点、(2)各3点
 - (問二) 各4点
 - (問三) 28点
 - ② (問一) 14点
 - (問二) 36点
- } 計100点

〔解説〕

1

問一 B1 情報を獲得する 置換

(1) 田沢湖の成り立ちについて、**文章A**では、辰子が龍に変わり、周辺の山が崩れてできたと書かれています。「泉の水を飲み続けたく大きな湖ができた。」という一文のはじめと終わりの五字を抜き出します。

(2) **文章B**では、田沢湖の成り立ちについて科学的な観点で二つの説が書かれています。

Iの火山については、「一九八八年に辰子堆と呼ばれるく岩石の存在が確認されたこと」という部分が六十八字ちようどで後の部分につながりませんから、この部分のはじめと終わりの五字を抜き出します。

IIの「隕石衝突の可能性」については、「巨大噴火を示す輪郭が円形に近いこと」という部分が三十四字ちようどで後の部分につながりませんから、この部分のはじめと終わりの五字を抜き出します。

問二 B1 情報を獲得する 理由 置換

八郎潟が冬に凍結するのに、田沢湖が冬に凍結しない理由については、**文章B**の第三段落に書かれています。

Aには水の性質について書かれた部分がありません。「水は比熱が大きいためにくその性質は強く発揮」という部分が五十字ちようどで後の部分につながりませんから、この部分をそのまま抜き出します。

Iには八郎潟では小さく田沢湖では大きくなるものがあります。田沢湖は水深が深いことで貯水量が大きく、

水深が浅い八郎潟は干拓前でも貯水量が少なかったと書かれていますので、「貯水量」が正解です。

ウ

には、田沢湖が凍結しないことを表す伝承の内容があまりありません。「八郎と辰子が共に暮らしているために凍らない」という部分が二十一文字ちようどで後の部分につながりませんから、この部分をそのまま抜き出します。

問三 C1 知識 理由 比較 類推 具体化

人間の生活をよりよくすること、野生生物のありのままの生活を守ることのどちらを優先するべきかと思うか、理由もふくめてあなたの意見を述べる問題です。各文章に書かれていることを参考にしながら考えを組み立ててもかまいませんし、自分自身が考えることを書いてもかまいません。

書き始める前に、条件がすべて入っているかどうかを確認したり、書くべきことを短く箇条書きにしておきましょう。それをもとにすることで作文が書きやすくなります。

※以下のポイントを中心にみます。

第一段落について

- ① 人間の生活をよりよくすること、野生生物のありのままの生活を守ることのどちらを優先するべきかについて自分の意見が書かれているか
- ② 内容の過不足、文や語句の表現・文の意味に誤りがないか
- ③ 第一段落で述べた意見の理由が書かれているか
- ④ 内容の過不足、文や語句の表現・文の意味に誤りがないか全体について
- ⑤ 段落が問題の指示に従って分けられているか

- ④ 答案用紙の使い方が正しいか
 ⑤ 誤字・脱字・送り仮名、仮名遣いの誤りがないか
 ⑥ 字数制限が守られているか

問二

B2 置換 比較 関係

——線部①「思いやりの技術」の前には二つの例が挙げられています。そのうちの二つ目の例は、両眼が不自由な人に進む方向を伝える方法について書かれています。その方法については、「こんなときには、声をかける前にくせつかくの親切も役に立たないのである。」という部分にくわしく書かれています。この部分を利用して、八十字以上百字以内という字数指定に合わせてまとめるとよいでしょう。

※以下のポイントを中心に見ます。

- ① 「思いやりの技術」の二つ目の例について、どのような人にとどのようなことをしてあげればよいかということについての筆者の考えが書かれているか
 ② ①に過不足がないか
 ③ 表記や表現が正しいか

問二

C2 置換 理由 比較 類推 具体化

「ころんでから、あわてて杖を探す」ということについて、日本人がどのような性質を持っているためにどのようなことをしてしまうのか、筆者の考えをまとめます。また、世の中で起こる問題を一つ挙げ、その問題に対して、どのような「ころばぬ先の杖」を用意したいと思うか、そう考える理由もふくめてあなたの考えを書きましょう。

第一段落には、「ころんでから、あわてて杖を探す」について筆者の考えをまとめます。——線部②の後に注目します。「とにかく頭がいいわりに、予測することの下手な国民である」とあり、ここから予測が下手であるという日本人の性質が読み取

れます。そのために、「交通事故が起こってから、あわててその部分だけ道路を直したり、ガードレールをつくったりする」のだと言っています。つまり、予測することが下手だという性質のために、ものが起こってからあわててそれに対応する、対応が後手に回ってしまうということが言えます。文章中の語句を使用する方法、書かれたことを一般化し、自分の言葉で書く方法のいずれでも構いません。

第二段落には、世の中で起こる問題の一つ挙げ、その問題に対してどのような「ころばぬ先の杖」を用意したいと思うか、あなたの意見をまとめます。文章に書かれた内容を利用しながら自分の意見を組み立てる方法、自分で考えた内容をまとめる方法のいずれでもかまいません。できるだけわかりやすく自分の意見を書くようにしましょう。第三段落には、第二段落で書いた意見の理由をまとめます。そのような意見になるのはなぜなのか、自分の言葉で説明するようにしましょう。

※以下のポイントを中心に見ます。

- 第一段落について
- ① 「ころんでから、あわてて杖を探す」とは日本人がどのような性質を持っているためにどのようなことをしてしまうか、ということについての筆者の意見が書かれているか
- ② 内容の過不足、文や語句の表現・文の意味に誤りがないか
第二段落について
- ③ 世の中で起こる問題の一つ挙げ、その問題に対してどのような「ころばぬ先の杖」を用意したいと思うか、ということについて自分の意見が書かれているか
- ④ 内容の過不足、文や語句の表現・文の意味に誤りがないか

第三段落について

- ③ 第二段落で述べた意見の理由が書かれているか
- ③ 内容の過不足、文や語句の表現・文の意味に誤りがないか
全体について
- ④ 段落が問題の指示に従って分けられているか
- ⑤ 答案用紙の使い方が正しいか
- ⑥ 誤字・脱字・送り仮名、仮名遣いの誤りがないか
字数制限が守られているか
- ⑦

1

問三										【例】
守	森	生	要	し		く	必	環		人
る	を	活	な	ん	な	す	要	境		間
工	切	を	食	で	ぜ	る	最	破		が
夫	り	成	料	い	な	こ	低	壊		よ
も	開	り	を	る	ら	と	限	に		り
し	く	立	得	人	、	を	の	つ		よ
な	こ	た	る	が	今	優	規	な		く
け	と	せ	こ	い	も	先	模	が		生
れ	で	る	と	る	多	し	で	っ		き
ば	生	こ	が	か	く	て	あ	て		る
な	物	と	が	ら	の	よ	れ	し		た
ら	が	と	き	だ	国	い	ば	ま		め
な	絶	で	ば	森	で	思	、	っ		に
い	め	き	、	を	食	う	今	た		行
と	つ	る	そ	切	料	。	後	事		っ
思	し	か	の	り	が		も	例		て
う	な	も	土	開	不		人	は		き
	い	し	地	き	足		間	あ		た
	よ	れ	に	農	し		の	る		開
	う	な	住	地	、		生	が		発
	に	い	む	に	う		活	、		に
	、	。	人	し	え		を	わ		よ
	環	同	々	、	に		よ	た		っ
	境	時	の	必	苦		り	し		て
	を	に					よ	は		

250

200

100

25

問二		
ウ	イ	ア
八	貯	発
郎	水	揮
と	量	
辰		
子		
が		
共		
に		
暮		
ら		
し		
て		
い		
る		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		
に		
行		
っ		
て		
き		
た		
め		

問二															【例】	問一				【例】	
夫	り	に	こ	が	分	と	く		思	に	あ	度		つ	で	の		置	め	え	人
を	、	よ	と	見	に	え	な	う	に	る	始		も	、	な	ヒ	し	て	、	、	間
し	成	つ	で	つ	記	ば	な	。	取	。	め	わ	の	見	な	ン	、	い	次	、	の
て	績	つ	、	け	号	図	ぜ		り	そ	と	た	つ	か	ト	、	る	パ	、	目	は
も	も	て	わ	や	を	形	な		組	の	ね	し	け	ひ	と	い	本	ツ	右	は	視
の	の	、	か	す	つ	の	ら		む	問	ば	も	し	そ	う	屋	と	に	に	は	界
ご	び	算	り	く	け	問	あ		と	題	り	の	ん	ん	も	は	目	あ	あ	の	の
と	て	数	や	な	て	で	き		、	、	強	と	と	て	の	は	につ	る	る	中	の
に	き	に	や	な	目	、	た		工	取	く	と	考	、	の	、	く	も	の	の	中
取	り	取	す	つ	立	辺	め		夫	り	と	考	え	ご	左	く	の	を	を	左	に
り	。	組	く	た	つ	の	ず		を	組	と	え	て	日	に	日	安	を	を	に	あ
組	こ	み	な	。	よ	長	取		す	め	で	い	る	常	あ	定	し	を	を	あ	る
ん	の	続	る	も	に	さ	り		る	る	算	、	、	的	し	て	と	を	を	る	も
で	よ	け	こ	あ	す	や	よ		点	よ	数	が	、	な	、	、	の	を	を	を	の
い	う	と	と	っ	と	角	う		に	に	の	で	、	こ	と	と	左	を	を	を	の
き	な	が	あ	。	、	の	に		あ	な	日	、	、	、	や	の	の	を	を	を	の
た	経	で	っ	。	新	大	な		る	っ	ご	、	、	、	些	、	棚	を	を	を	の
い	験	、	こ	。	し	き	な		の	た	ろ	、	、	、	な	に	に	を	を	を	の
と	か	ら	う	。	い	が	。		で	か	か	、	、	、	、	、	平	を	を	を	の
思	ら	、	う	。	手	等	。		は	ら	ら	、	、	、	、	積	を	を	を	を	の
。	、	今	よ	。	が	し	。		な	い	い	、	、	、	、	み	を	を	を	を	の
	後	う	う	。	変	い	。		い	か	の	、	、	、	に	に	を	を	を	を	の
	も	に	な	。	え	部	。		か	と	と	、	、	、	配	配	を	を	を	を	の
	工	な	夫	。	る	部	。		と	と	と	、	、	、	。	。	を	を	を	を	の

450

400

300

200

100

25

100

25

(配点)

- ① 〔問一〕(1)4点、(2)各3点
 - 〔問二〕 各4点
 - 〔問三〕 28点
 - ② 〔問一〕 14点
 - 〔問二〕 36点
- } 計100点

【解説】

1

問一 B1 情報を獲得する 置換

(1) 田沢湖の成り立ちについて、**文章A**では、辰子が龍に変わり、周辺の山が崩れてできたと書かれています。「泉の水を飲み続けたく大きな湖ができた。」という一文のはじめと終わりの五字を抜き出します。

(2) **文章B**では、田沢湖の成り立ちについて科学的な観点で二つの説が書かれています。

Iの火山によって田沢湖ができたとする「火山成因説」については、「一九八八年に辰子堆と呼ばれるく岩石の存在が確認されたこと」という部分が六十八字ちようどで後の部分につながりますから、この部分のはじめと終わりの五字を抜き出します。

IIの「隕石衝突の可能性」については、「巨大噴火を示す輪郭が円形に近いこと」という部分が三十四字ちようどで後の部分につながりますから、この部分のはじめと終わりの五字を抜き出します。

問二

B1 情報を獲得する 理由 置換

八郎潟が冬に凍結するのに、田沢湖が冬に凍結しない理由については、**文章B**の第三段落に書かれています。

Aには水の性質について書かれた部分がありません。「水は比熱が大きいためにくその性質は強く発揮」という部分が五十字ちようどで後の部分につながりますから、この部分をそのまま抜き出します。

Iには八郎潟では小さく田沢湖では大きくなるものがあります。田沢湖は水深が深いことで貯水量が大きく、

水深が浅い八郎潟は干拓前でも貯水量が少なかったと書かれていますので、「貯水量」が正解です。

ウ

には、田沢湖が凍結しないことを表す伝承の内容があまりありません。「八郎と辰子が共に暮らしているために凍らない」という部分が二十一文字ちようどで後の部分につながりますから、この部分をそのまま抜き出します。

問三

C1 知識 理由 比較 類推 具体化

人間の生活をよりよくすること、野生生物のありのままの生活を守ることのどちらを優先するべきかと思うか、理由もふくめてあなたの意見を述べる問題です。各文章に書かれていることを参考にしながら考えを組み立ててもかまいませんし、自分自身が考えることを書いてもかまいません。

書き始める前に、条件がすべて入っているかどうかを確認したり、書くべきことを短く箇条書きにしておきましょう。それをもとにすることで作文が書きやすくなります。

※以下のポイントを中心に見ます。

第一段落について

- ① 人間の生活をよりよくすること、野生生物のありのままの生活を守ることのどちらを優先するべきかについて自分の意見が書かれているか
- ② 内容の過不足、文や語句の表現・文の意味に誤りがないか
- ③ 第二段落について
- ④ 第一段落で述べた意見の理由が書かれているか
- ⑤ 内容の過不足、文や語句の表現・文の意味に誤りがないか
- ⑥ 全体について
- ⑦ 段落が問題の指示に従って分けられているか

- ④ 答案用紙の使い方が正しいか
 ⑤ 誤字・脱字・送り仮名、仮名遣いの誤りがないか
 ⑥ 字数制限が守られているか

問二 **B2** 置換 比較 具体化

——線部①の前に人間にどのような性質があるか、よく売れる本屋がどのようなことをしているのかが書かれています。「人間の目は安定してとらえる」という部分が、人間が持つ性質について書かれた部分です。また、「よく気がつく店主は、パッと目につく新刊書を入口の左の棚に平積み配置している」という部分が、本屋が行っている工夫について書かれた部分です。この二つの部分を利用して八十字以上百字以内という字数指定に合わせてまとめるとよいでしょう。

- ※以下のポイントを中心に見ます。
- ① 人間にはどのような性質があり、具体的にどのようなことをしている本屋がよく売れるかについて書かれているか
 - ② ①に過不足がないか
 - ③ 表記や表現が正しいか

問二 **C2** 置換 理由 比較 類推 具体化

「ヒントとかアイデアというものは、社員一人一人の机の引き出しの中に入っている」という内容を言いかえている部分と、それらをどのようにするとよいかということについて、筆者の考えをまとめます。また、長所を伸ばすことのヒントはどのようなところにあると思うか、そう考える理由もふくめて自分の意見をまとめます。

第一段落に「ヒントとかアイデアというものは、社員一人一人の机の引き出しの中に入っている」という部分を言いかえた内容をまとめます。——線部②の「ヒントとかアイデアというものは、社員一人一人の机の引き出しの中に入っている」とい

う部分は、比喩(たとえ)が用いられています。この比喩を言いかえた部分は、最後の段落の「要するにヒントはいくらでもある。それもごく日常的な些細な事柄のなかに潜んでいる。それをみつけ出し、仕事に結びつけた人が勝ちである。」という部分です。この部分を利用してまとめるとよいでしょう。

第二段落には、自分の長所を伸ばすことのヒントはどのようなどころにあるか、ということについてあなたの意見をまとめます。文章に書かれた内容を利用してながら自分の意見を組み立てる方法、自分で考えた内容をまとめる方法のいずれでもかまいません。できるだけわかりやすく自分の意見を書くようにしましょう。

第三段落には、第二段落で書いた意見の理由をまとめます。そのような意見になるのはなぜなのか、自分の言葉で説明するようにしましょう。

※以下のポイントを中心に見ます。

第一段落について

① 「ヒントとかアイデアというものは、社員一人一人の机に引き出しの中に入っている」という内容を言いかえている部分と、それらをどのようにするとよいかということについて、筆者の考えが書かれているか

② 内容の過不足、文や語句の表現・文の意味に誤りがないか
第二段落について

③ 長所を伸ばすことのヒントはどのようなどころにあるかということについて自分の意見が書かれているか

④ 内容の過不足、文や語句の表現・文の意味に誤りがないか
第二段落について

⑤ 第二段落で述べた意見の理由が書かれているか

③ 内容の過不足、文や語句の表現・文の意味に誤りがないか
全体について

④ 段落が問題の指示に従って分けられているか

⑤ 答案用紙の使い方が正しいか

⑥ 誤字・脱字・送り仮名、仮名遣いの誤りがないか

⑦ 字数制限が守られているか

